

年 期	延 長	年 期	延 長
一八八五年	二二三哩	一八八七年	九五四哩
一八八〇年	四八五一	一八八八年	一〇一三七
一八八五年	八〇四五	一八九〇年	一二〇〇一

○全 各洲鐵道ノ長及ヒ開業月日 (全上)

洲 名	延 長 哩 數	開業年月日(第一線開通創業)	建 設 費 (壹哩ニ付)
グイクトリヤ	二七六二哩	千八百五十四年九月十四日	六四七五五弗
ニューサウスウエルス	二一八二	千八百五十五年九月二十五日	七二七九五
クインスランド	二二一二	千八百六十五年七月三十一日	三二一〇〇
サウスヲホストリヤ	一八一〇	千八百五十六年四月十六日	三一七八五
ウエストヲホストリヤ	八一三	千八百七十三年未詳	二一七七〇
ニコウジラント	一九四八	千八百六十三年十二月一日	三八七六〇
タスマニヤ	三七四	千八百七十一年二月十九日	四二一八〇
合 計	一二〇〇一	平均壹哩ノ建築費	四七五六五

元資ニ對スル收入ノ割合年利三分三厘三毛

○西伯利亞鐵道ノ軌間ト速力 (全上)

總延長六千二百哩ニテ魯都セントペートルスボルク府ヨリ浦塩斯德港へ連絡スル鐵道ノ軌

間ハ魯國固有ノ基本軌間ニシテ壹メートル五二即チ四呎十一吋ト四分三ニシテ豫定ノ速力ハ一時間ニ僅カ十三哩ノ見込ナリト

○印度ノ鐵道 全上 Nov. 7, 1891 去今四十年ヨリ布設シタル鐵道ノ延長一万六千二百七

十七哩ニシテ此三分二線路ハ其軌間五呎六吋其他ハメートル軌間ナリ五呎六吋軌間ノ工費ハ一哩ニ付六万弗メートル軌間ハ全ク二万五千弗ナリ全体ノ収入ハ元資ニ對シ四分七厘余ナリト  
(以上三件杉山)

○巴里造船學校(L'Ecole d'Application du Génie Maritime)ノ名譽 巴里學士會院ニテハ千八百

三十四年十一月十三日及千八百七十六年十二月二日ノ決議ニ基キ佛國海軍進歩ノ爲メニ最モ功績顯著ナル事業ニ對シ折々特別賞金ヲ授與スルノ慣例アリ昨年十二月二十九日ノ同會

院公會ニ於テモ右特別賞金六千フランノ授與式ヲ舉行シタリ其時ノ偉業審査委員ハ執レモ同國海軍事務ニ最モ老練ナル大家ニシテ其人々ハジュリアンド、ラ、グラヴィエール氏(當時先任海

軍中將)ド、ジョンキエール氏(前海軍大將)フーケ、ド、ラ、グリー氏(海軍水路部長)パーリ氏(海軍中將

ド、ピユツシー氏(當時ノ海軍機技總監)ノ五名ナリシガ此内後ノ三氏ハ報告委員ヲモ兼ネタリ

審査委員タル五名ノ大家ハ審議評決ノ上三ツノ偉業者ヲバ撰定シタルカ此榮撰ヲ蒙リタルモノハ實ニ左ノ三大人ナリキ

- 第一受賞者 巴里造船學校々々長海軍大技監マダメ氏(巴里造船學校ノ代表者トシテ)
- 第二受賞者 ルチュー及カチア氏(海軍用最新武器詳論ノ著者トシテ)
- 第三受賞者 水路部技師ルイ、ブローヴェ氏(非常ノ艱苦ヲ嘗メ有名ナル東京及マダガスカルトシケン)